

# 人のとなりにならうに

山口 明美さん



本市唯一の大学である鹿兒島純心大学。平成6年の開学以来、女子大学として歩んできましたが、令和5年4月から男女共学となりました。今回は教職員や地域の方と共に学生を育てる学長の思いに寄り添います。

「人のとなりに」とは…文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。



笑顔の山口学長と入試広報課の小川徹見さん

# 薩摩川内市で暮らす ～移住・定住制度が新しくなりました～

【申請・問合せ】本庁企画政策課地域デザイン・移住定住グループ（内線4852、4853）

本市では、少子化や進学・就職に伴う若年層の市外転出により人口減少が進む中、移住・定住による人口の増加は重要なテーマです。そこで、地域に増える空き家を移住者向けの住宅に活用したり、子育て世代の移住を促進することを目的に、令和5年度から新しくなった移住・定住制度を一部紹介します。

**空き家を移住者向けの賃貸住宅に活用するための補助制度をリニューアルしました**

「地域移住促進事業補助金」により、増える空き家を活用して移住希望者が移住しやすい住環境の整備を促進します。

▼補助概要 〓空き家を活用して移住者向けの賃貸住宅に改修する活動に補助します。事業完了後に入居者が不在の場合は市の空きバンクへの登録が必須となります。

▼補助対象事業 〓空き家の改築またはリフォーム、家財道具の処分などで工事費など50万円以上のもので、家財道具処分のみの場合3万円以上のもの。

▼補助対象地域 〓甌島区域、樋脇地域、入来地域、東郷地域、祁答院地域、川内地域の一部地区（平佐東、水引、峰山、滄浪、寄田、八幡、城上、吉川、陽成、湯田、西方）

▼申請方法 〓提出書類に必要事項を明記の上、企画政策課へ直接お持ちください。その他、詳しくは、市ホームページをご確認ください。



地域移住促進事業補助金について

## 小学生の頃からの夢「教師」

「塾があまりなかった時代に、学校以外で勉強を教えてくれたのは両親でした。その教え方がとてもわかりやすく、自分もいつかこんな教え方ができたらいいなという思いがいつしか「教師になりたい」という夢になりました」と話すのは、鹿兒島純心大学で学長を務める山口明美さん。

ただ、大学の教授になることは全く想定していなかったそうで、大学を卒業して初めて勤務したのは、鹿兒島純心女子中学校。その後、姉妹校を転勤し長崎や東京の中学・高校で計23年間教えていました。転機は、当時の鹿兒島純心女子大学で改組があった時。小学校教員養成を始めることになったこの大学から声が掛かり、初めて薩摩川内市へ。そして、初めて大学生への授業。それから、16年が過ぎました。

## 学長室をノックする音で

学長室の扉を開けると、そこには学生が立っていることも。学長室でのおしゃべりで、学生の困り事を直接聞けるのですぐ対応できたり、悩み事についての相談にも乗ったりするそうです。学生と先生の距離が近く、直接話を聞くことが、学生の思い

に寄り添うことにつながります。「若い方の新しいことをどんどん吸収し、変化し、成長していく姿が自分にとってエネルギーとなっている。この現場にいられて本当に幸せ」と語ります。

また、学生には、「鹿兒島純心大学の地に根を張り、しっかりと養分を吸収し、豊かな人間性を育ててほしい。まず『心』を育て、それを土台として専門的な知識を身に付けてほしい」と。

## 「人を想う、人と輝く」

「自分自身を大切にすることができ、周りの人も大切にすることができ一緒に輝ける、そういう生き方を学生と共に続けていきたい、そういう生き方をする学生を育てていきたい。卒業しても、自分も輝きつつ、同時に、どこにいても『地球家族の一員』として、世界で貢献できるようなキラキラと輝ける生き方をしてほしい」と。

## 男女共学へ

「コロナ禍で若者の自己肯定感の低下や自死率の高さ、多様な価値観が求められる社会が後押しとなった。いろいろな人と仕事をし、人生を歩むことが求められる中、今、男女共学にする必要があると感じた。また、本学の『人を想う、人を愛する、人を大切にすること』という

思いを育てる使命は性別に限らずある」と話します。

## 地域の方たちへ

「地域の方に大変お世話になっている。留学生のために自転車を準備していただくなど、温かく対応していただいている。お礼を申し上げます。」

学食や図書館などを開放し、学祭の場でも地域とつながってきたい。大学として専門的な情報を提供しながら、困ったことがあればいつでも動けるフットワークの軽さで関わってきたい」と話してくれました。

## 学生と関わっているときが一番うれしい

以前、チャペルでの授業を行う際、始まるまで一番前の席で前を向いて座っていると、学生がわざわざ回り込んで来て顔を合わせ挨拶してくれたそうです。「そのような行動は学校生活や家庭での教育で染み付いている。そういう学生がこの大学に入ってきてくれるのだと感じる」と。

「高校まで欠席がちだった学生も4年間で、笑顔を見せ、積極的になっていく。一人一人が成長するスピードは違うから、急がず待ちたい。」そんな思いを胸に、今日も山口学長は教職員や地域の方と共に学生を見守ります。

## 子育て加算を新設しました

令和5年4月1日から令和8年3月31日までに本市へ転入し、「定住促進事業補助金」において、定住のための住宅を新築・購入された方、またはリフォームされた方で一部の地域を対象に、子育て加算を新設しました。子育て加算は、転入時に中学生以下を帯同する世帯を対象に、1世帯当たり50万円を補助します。

今回紹介した制度以外にも、将来の地域を担う若者や子育て世代の豊かな暮らしをサポートすることで定住を促進する各種助成制度を設けています。詳しくは、移住・定住に関する助成・支援ページをご覧ください。



市「移住定住支援」サイトについて

## 移住・定住支援のホームページ開設

移住を検討されている方、移住された方向けのホームページを開設しました。親戚や友人で本市への移住・定住を検討されている方はいらっしゃいませんか。ぜひご利用ください。



市「移住定住支援」ホームページ



## 先輩移住者の声

大阪から祁答院地域へ移住された方にインタビューしました。

▼移住のきっかけは？ 〓今までは、夜中にもネオンが輝く場所に住んでいたのですが、知り合いが住む薩摩川内市を訪れた際、自然豊かでのんびりできる雰囲気惹かれたことです。

▼市の印象は？ 〓人が優しいです。子どもが横断歩道を渡った後に挨拶する姿が素晴らしいと感じました。

▼本市での生活の展望は？ 〓仕事を通して、移住者の視点で気づいた良いところを発掘・発信していきたいです。若者が生活していく上で、意識の持ち方次第では、都会よりチャンスが多いかもしれません。

## 薩摩川内市定住支援センターより

移住・定住に関する各種相談や助成制度の利用などについてお手伝いします。まずはお気軽にお電話ください。0120-420-200